

2009年度・公式規則変更予定報

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在、2009年秋季公式戦から適用される公式規則の変更を作業中です。

この2009年度・公式規則変更予定報は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関し概要を説明したもので、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行するものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業で変更の可能性があります。正式には本年7月上旬頃に発表予定の2009年度・公式規則変更決定報で公示します。

2009年度・公式規則変更予定主要項目

2009年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) ジャージーの色の規定変更

☆従来、ビジティングチームのジャージーは白色が原則であった。

★ビジティングチームのジャージーは白色が原則であるが、本年より次の2項目を満たせばカラー・ジャージーの着用ができるようになった。

1. ビジティングチームがカラー・ジャージーを着用することをホームチームが試合前に文書で合意する。
 2. 両チームのジャージーが対照的な色であることをホームチームの所属する競技団体が認める。
- なお、ホームチームが白色のジャージーを着用したい場合の手順は、従来どおりであり変更はない。

(1-4-3-a)

(2) 「ブロッキング・ゾーン」の定義

☆従来、クリッピングをしても反則とはならないゾーン、および背後のブロックをしても反則とはならないゾーン（いわゆる「クリッピング・ゾーン」）の規定があった。

★従来のいわゆる「クリッピング・ゾーン」は、本年より「ブロッキング・ゾーン」の名称となった。ゾーンの縦横の長さの変更はないが、その中心が従来の「攻撃側中央のラインマン」から「スナッパー」に変更された。なお、このゾーンは、従来どおり、ボールがこのゾーン外に出ると消滅する。

(2-3-6)

(3) タックル・ボックスの定義

☆従来、両タックル間のゾーンに関するルールがいくつかあったが、その定義はなかった。

★本年より、新たに「タックル・ボックス」の用語が定義され、「ニュートラル・ゾーンとAチームのエンドライン、およびサイドラインに平行でスナッパーから5ヤードの2本の線に囲まれた長方形のゾーン」となった。

(2-34)

(4) 40秒計の導入

☆従来、プレーの終了後は、いつでもレフリーのレディ・フォー・プレーで25秒計の計時を開始し、スナップまでの許容時間は25秒であった。

★プレークロック(現在の25秒計)は、試合の進行状況に応じて、計時時間(スナップまでの許容時間)が、40秒または25秒の2種類となった。

ボールデッドとなると原則的に40秒から計時する。例外的に25秒から計時するのは次の場合である。反則の発生、チーム・タイムアウト、各節の開始、テレビタイムアウト、ラジオタイムアウト、超過節でのシリーズの開始、メジャー、攻守交代、他の運営上による中断、トライ・フォー・ポイント、負傷者によるタイムアウト。ただし、Bチームの負傷者によるタイムアウトに限り40秒から計時する。

40秒計時は、ボールデッドの時点で計時開始とする。25秒計時は、レディ・フォー・プレーで計時開始とする。Bチームの負傷者によるタイムアウトの場合は、レディ・フォー・プレーで計時開始とする。

なお、本項目は昨年度、2008年度・公式規則変更決定報で2009年から適用として予告した項目である。(3-2-4)

(5) アウト・オブ・バウンズ後の計時開始の変更

☆従来、ファンブルした地点より前方でファンブルがアウト・オブ・バウンズに出た場合を除き、ボールキャリア、ファンブルまたはバックワード・パスがアウト・オブ・バウンズに出たときには、ゲームクロックはスナップで計時開始であった。

★本年より、前後半の最後の2分間を除き、ボールキャリア、ファンブルまたはバックワード・パスがアウト・オブ・バウンズに出たときには、ゲームクロックはレディ・フォー・プレーで計時開始となる。なお前後半の最後の2分間は、従来どおり、スナップで計時開始であり、ファンブルした地点より前方でファンブルがアウト・オブ・バウンズに出た場合は、レディ・フォー・プレーで計時開始である。(3-2-5-a-12)

(6) キックオフ時のキック側制限線の変更

☆従来、罰則による移動がない限り、キックオフ時のキックチームの制限線は自陣の35ヤードラインであり、セフティー後のフリーキックの制限線は自陣の20ヤードラインであった。

★本年より、罰則による移動がない限り、キックオフ時のキッキング・チームの制限線は30ヤードラインとなる。なお、セフティー後のフリーキックの制限線は、従来どおり、自陣の20ヤードラインである。(6-1-1)

(7) 攻撃側フォーメーションの条件変更

☆従来、攻撃側のフォーメーションでは、次の条件があった。

スクリメージ・ライン上には、最少限7名のプレーヤーが正当にいないなければならない。また、そのうち5名以上は50～79の番号を付けていなければならない。

★本年より、攻撃側のラインマンは最少限7名の制限が無くなり、次のように変わった。

1. 50～79の番号のプレーヤーがスクリメージ・ライン上に少なくとも5名。

2. バックは最大4名まで。(7-1-3-b-1)

(8) 無資格レシーバーの前進の制限

☆従来、ニュートラル・ゾーンを越える正当なフォワード・パスが投げられる場合は、そのパスを投げ終わるまで、当初に無資格レシーバーだったプレーヤーはニュートラル・ゾーンを越えてはならないが、例外として次の2項目が規定されていた。

1. スナップ後、Aチームの無資格レシーバーが直ちにチャージし、ニュートラル・ゾーンを越えて1ヤード以内で相手と接触し、接触の継続がニュートラル・ゾーンを越えて3ヤード以下の場合。
2. スナップ時に無資格レシーバーであったプレーヤーが相手にチャージし、ニュートラル・ゾーンを越えて3ヤード以内で接触がなくなり、パスが投げられるまでその地点に静止した場合。

★本年より、ニュートラル・ゾーンを越える正当なフォワード・パスが投げられる場合は、そのパスを投げ終わるまで、当初に無資格レシーバーだったプレーヤーは、相手との接触の有無にかかわらずニュートラル・ゾーンを越えて3ヤードまでは進むことができるようになった。(7-3-10)

(9) フェイス・マスクの反則の追加

☆従来、フェイス・マスクの反則は、相手のフェイス・マスクやヘルメットの開口部をひねる、まわす、または引く場合が対象であった。

★本年より、フェイス・マスクの反則の対象が、相手のフェイス・マスクやヘルメットの開口部にチンストラップも加わった。ひねる、まわす、または引く行為に関しては変更ない。(9-1-2-q)

(10) キッカーに対する保護条項の変更

☆従来、スクリメージ・キックのキッカーが何歩か走ってからキックする場合のキッカーの保護に関する規定はなかった。

★本年より、スクリメージ・キックのキッカーは、以下の場合にキッカーとしての保護がなくなり、キッカーに対する乱暴な行為の反則の対象外となった。

- (a) 自分の身体のバランスが戻るのに十分な時間が経過したとき(従来どおり)。
- (b) キックの前にキッカーがボールを持ちタックル・ボックスの外に出たとき。(9-1-4-a-5)

(11) ひどい(悪質な)パーソナルファウルに対する制裁

☆従来、ひどいパーソナル・ファウルに対しての試合後の取扱いの規定はなかった。

★本年より、ビデオによる検証が可能であることを前提にして、ひどい(悪質な)パーソナルファウルに対して、競技団体による追加的処分が認められるようになった。

1. 退場になった場合は自動的に、かつ当該チームの次の試合の前に、追加的処分の検討のため競技団体によるビデオの見直しが行われる。
2. 退場を伴わない「狙い撃ち」も自動的に、かつ当該チームの次の試合の前に、追加的処分の検討のため競技団体によるビデオの見直しが行われる。
3. 反則と判定されなかったひどいパーソナルファウルに対しても、競技団体によるビデオの見直しにより反則であることが明らかになった場合は、当該チームの次の試合の前に、処分の対象となることもある。(9-6)

以上